

哈密力 (Kamil) とか峻里迷 (Sulmi) とか曲先 (Kūsān) とかいふ名は蒙古人にこれを傳へたと思はれるトルコ人の間では、既に古くからかく稱して居つたもので、従つてこれらの文書の時代は蒙古時代よりも更に古いものと見て少しも差支ないのである。但しこれらの文書の時代は勿論判然と定めることは出来ない。多くの人々が大概これを唐代のものとして認めてゐるやうであるが、それは決して確實動かすべからざる證據が存するのではない。無論唐代のものゝ存することは否まないが、更に後の時代に屬するものも少からず存することは余の信じて疑はないところである。それについての詳細な研究は他日の發表に譲ることにする。

此の如く余は Kūsān といふ名を蒙古時代からの記録に見える曲先 (Kūsān) 〓別にまた苦先とも書かれる〓即ち古の龜茲の地を稱する名であると考へるのであるが、この名は既に遅くとも西紀第十世紀の半頃にはこの地方のトルコ人の間に行はれて居つたものであらうと思ふ。(元史卷一八〇耶律希亮傳、明史西域傳の終りに附せる朝貢の地面を記せる所にも苦先の名見ゆ。) 龜茲の土名は曾てペリオ氏の論じたやうに Kūi であつたであらうし、唐代の梵語文書にはこれを Kuci と稱して居るのであるが、この頃のトルコ人等はこれをこの文書に見える形、即ち Kūsān と稱したのであらうと思ふ。その證據と思はれるものは有名な Massudi の Les prairies d'or の中に「Tagazgaz は Khoragan と Chine との間に位する Kūsān といふ町を領し、今日即ち三三二一年(西紀九四三—九四四)にすべてのトルコ族中最も重要な種族で、また最もよく統治されて居る。……彼等はすべてこれらの種族中で、たゞ獨りマニ教を奉ずるものである」と記され、また別に「Kūsān の町を領し、Tagazgaz を統御するトルコの王」云々といふ記事のあることである。この頃の Tagazgaz といふ名が西遷後のウイグル部族を指したものであることは少